

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	北海道文教大学
設置者名	学校法人 鶴岡学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計			
外国語学部	国際言語学科	夜・通信	3	9	27	39	13		
人間科学部	健康栄養学科	夜・通信		12		63	78	13	
	理学療法学科	夜・通信				90	105	13	
	作業療法学科	夜・通信				69	84	13	
	看護学科	夜・通信		14	102	119	13		
	こども発達学科			6	127	136	13		
(備考)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://unipa-ap.do-bunkyo-dai.ac.jp/up/faces/login/Com00505A.jsp">https://unipa-ap.do-bunkyo-dai.ac.jp/up/faces/login/Com00505A.jsp</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	北海道文教大学
設置者名	学校法人 鶴岡学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学HPにおいて公開している「役員名簿」に掲載し公表している。  
<http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/university/directorlist.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社玉川組	2年 (R2. 7. 1～R4. 6. 30)	会社を経営する等、地域経済界で活躍している経歴を活かし、会社経営の視点から学園の運営・発展に携わる。
非常勤	恵庭体育館	2年 (R2. 7. 1～R4. 6. 30)	地域貢献担当 恵庭市内に長く勤務していた経歴を活かし、地域貢献の視点から学園の運営に携わる。
(備考) 非常勤理事3名中2名を記載			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	北海道文教大学
設置者名	学校法人 鶴岡学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>開講前年度の12月までに来年度の授業を計画し、2月中旬を期限としてシラバスの作成、ポータルシステムへの登録へと進めている。教員には「シラバスの作成に関する研修会について」のFD研修会を開催し、資料「シラバス作成要領」に基づき、①授業の位置づけ、②授業の概要、③到着目標、④授業の方法、⑤ICT活用、⑥実務経験のある教員の教育内容、⑦課題に対するフィードバックの方法、⑧授業計画(学習内容、準備事後学習)、⑨成績評価の方法、⑩教科書、⑪参考文献などを示している。シラバス作成後は、シラバスチェック専門部会規程により選出されたシラバスチェック委員により、全科目のシラバスが「シラバスチェック要領」に基づいて内容確認が行われ、3月下旬にWEB公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://unipa-ap.do-bunkyo-dai.ac.jp/up/faces/login/Com00505A.jsp">https://unipa-ap.do-bunkyo-dai.ac.jp/up/faces/login/Com00505A.jsp</a>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>各授業科目について、事前にシラバスに記載された「評価の方法」に基づき評価を行い、単位を与えると共に、入学前に教育機関で得た単位について学内の委員会で審議を行い、適当と判断されたものについて単位を認定している。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価においては客観的な指標の設定としてGPAを算出する制度を定めている。GPAの公表方法として、学生への通知は成績通知表に学期GPA及び通算GPAを表示することにより行い、成績証明書には記載しない。各学科はGPAに基づく学修指導の計画を策定し、学生の学修指導を行うものとする。学期GPAが4期連続1.0未満となった場合は退学を勧告する。算出方法は以下のとおりで、計算値は小数点第3位以下を四捨五入して標記する。

学期GPA

$$\frac{\text{(当該期に評価を受けた学科のGPA} \times \text{その科目の単位数) の合計}}{\text{当該期の総履修登録単位数}}$$

通算GPA

$$\frac{\text{(各学期に評価を受けた科目のGP} \times \text{その科目の単位数) の合計}}{\text{総履修登録単位数}}$$

※GPとは各授業科目の5段階の成績評価に対応した評点(グレードポイント)

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

[www.do-bunkyo.ac.jp/outline/edc/20100304\\_01.pdf](http://www.do-bunkyo.ac.jp/outline/edc/20100304_01.pdf)

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

国際言語学科

4年以上在籍し所定の単位数を修得すると共に、以下の素養を身に付け、外国語としての英語運用能力において、相手と意思疎通が十分にはかれるレベルの学生に対して卒業を認定する。

- ・英米語コースでは、英語を実践的に運用できる知識とスキルを身につけている。
- ・観光・ビジネスコースでは、グローバルに展開する当該業界を理解し、実践に応用可能な知識及び英語の技能を身につけている。
- ・4技能（聴く、話す、読む、書く）の運用能力を高め、実践の場で活用することができる。
- ・目指す産業界が求める技能に習熟し、実践の場で活用することができる。
- ・グローバル社会に通用するルールとマナーを身につけ、学びの成果を社会人生活の中で活かして行こうとする。
- ・日常生活で適切な道徳観、倫理観を持ち、主体的に行動する。
- ・問題解決のために必要な情報を収集分析し、適切な判断を主体的に下すことができる。

健康栄養学科

健康栄養学の学位は、人々の健康と社会の福祉に貢献することができる豊かな人間性を持ち、『社会から望まれる管理栄養士』に必要な以下の能力を修得したとき授与する。

- ・病院等における栄養補給法に関し、医療チームに対して必要な提案や助言ができる。
  - ・地域住民の疾病予防や健康増進のための栄養教育を、栄養疫学に基づいて展開できる。
  - ・栄養学的なエビデンスに基づき、食品関連企業等において商品開発や製品の管理に参画できる。
  - ・個人・集団の健康状態等に適応する、適切に栄養管理された食事が提供できる。
- 上記のような能力を身に付け、所定の単位を修得した者に対し卒業を認め、栄養学の学位を授与する。また、その目標を達成するため、以下のような知識・技術を身に付けるための教育を実施する。

理学療法学科

社会性と教養を身につけた理学療法士になることができる。

【知識・理解】

- ・理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。
- ・理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。

【思考・判断】

- ・理学療法学における課題を倫理的に探究する能力を身につけている。

【関心・意欲】

- ・対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。
- ・医療に関わる他の職種との役割を理解し、協力関係を築くことができる。

【態度】

- ・幅広く教養を高める意識と、理学療法学の発展に貢献するという使命感を持っている。

【技能・表現】

- ・理学療法士としての臨床場面での技能や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。

#### 作業療法学科

- ・作業療法を実践するために基本的知識を身につけている。
- ・作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。
- ・作業療法評価学・作業療法治療学の基本的技能を身につけている。
- ・作業療法を実践するために必要な文章力・対人的コミュニケーションの技能・プレゼンテーションとディスカッションの基本的技能を身につけている。
- ・作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自立性と個別性を尊重できる。
- ・根拠に基づく作業療法（EBOT）の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決方法を見いだせる。

#### 看護学科

看護学科は、4年以上在籍し所定の単位数を修得すると共に、以下の素養を身につけ、看護師としての基礎能力を身につけているレベルに達したと認められる学生に対して卒業を認定する。

- ・看護学の理論や科学的根拠に基づき、人々の健康的な生活を支援するための基礎的知識を獲得することができる。
- ・人々の健康課題を解決するための柔軟な思考力と大局的な判断力を持ち、協働しながら援助を実践することができる。
- ・人々の健康増進に関心を持ち、主体的に学習を継続し、自己成長につなげることができる。
- ・科学的に思考し、創造的に問題や課題を探求し解決することができる。

#### こども発達学科

- ・卒業までに地域社会と保護者のニーズに応え、保育・教育・子育て支援において、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援し、保育者、教育者、子育て支援者としての基本的資質を身につけている。
- ・こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての知識と理解を得ている。
- ・保育者・教育者・子育て支援者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力、および同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を獲得する。
- ・今日の保育・教育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しよとする意欲・態度を身につけている。
- ・主体的・探求的な学習を通じて、変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることのできる基礎力を修得している。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

[www.do-bunkyo.ac.jp/department/dp\\_cp/index.html](http://www.do-bunkyo.ac.jp/department/dp_cp/index.html)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	北海道文教大学
設置者名	学校法人 鶴岡学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/project.html">www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/project.html</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/project.html">www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/project.html</a>
財産目録	<a href="http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/project.html">www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/project.html</a>
事業報告書	<a href="http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/project.html">www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/project.html</a>
監事による監査報告(書)	<a href="http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/project.html">www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/project.html</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: 学校法人鶴岡学園中期計画2024 対象年度: 2020年度~2024年度)	
公表方法: <a href="http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/university/plan2024.pdf">www.do-bunkyo-dai.ac.jp/university/plan2024.pdf</a>	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/university/evaluation/index.html">www.do-bunkyo-dai.ac.jp/university/evaluation/index.html</a>
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/university/evaluation/index.html">www.do-bunkyo-dai.ac.jp/university/evaluation/index.html</a>
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国際言語学科
教育研究上の目的 (公表方法 : <a href="http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/department/univ/foreign/international/index.html">http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/department/univ/foreign/international/index.html</a> )
(概要) グローバルな共通語である英語、北海道とアジアをつなぐ中国語と自分たちの思考の源である日本語能力を、国際言語学科の英語・中国語・日本語教育で豊富な経験をもつ教員が語学力・コミュニケーション力を鍛え上げる。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : <a href="http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/foreign.html">http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/foreign.html</a> )
(概要) 4 年以上在籍し所定の単位数を修得すると共に、以下の素養を身に付け、外国語としての英語運用能力において、相手と意思疎通が十分にはかれるレベルの学生に対して卒業を認定する。 ・英米語コースでは、英語を実践的に運用できる知識とスキルを身につけている。 ・観光・ビジネスコースでは、グローバルに展開する当該業界を理解し、実践に応用可能な知識及び英語の技術を身につけている。 ・4 技能 (聴く、話す、読む、書く) の運用能力を高め、実践の場で活用することができる。 ・目指す産業界が求める技能に習熟し、実践の場で活用することができる。 ・グローバル社会に通用するルールとマナーを身につけ、学びの成果を社会人生活の中で活かして行こうとする。 ・日常生活で適切な道德観、倫理観を持ち、主体的に行動する。 ・問題解決のために必要な情報を収集分析し、適切な判断を主体的に下すことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : <a href="http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/foreign.html">http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/foreign.html</a> )
(概要) 学生が、自らの目標を明確に理解できる実践的な科目を設定する。少人数教育による、きめ細やかな指導を行い、実践的な能力の向上に資する科目を設定する。目指す業界で求められる科目を設定する。学習の成果を学生自らが理解でき、成長を確認できる指導をする。科目相互の関連を重視した適切な科目の展開及び学年配置をはかる。英語を使用言語とする授業を通じて、英語の実践的な運用能力を獲得できる。基礎ゼミを通じて、大学での学習の仕方、方法を学び、上級学年での実践的なアウトプット能力伸長へとつなげる。TOEIC、英検、観光英検、または国内・総合旅行業務取扱管理者試験を受験する。入学時から系統的にキャリア教育を実施する。入学時から順次、学習していくことで、3 年次後期からの就職活動にリンクさせたカリキュラムとなっている。



入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/foreign.html>）

（概要）

自分の現状に満足せず、さらに高い目標に向かって努力しようとする人。グローバル社会に生かせる語学力や知識を身につけ、世界の舞台で活躍しようとする人。仲間と協働することを楽しみ、自分と異なる価値観に対しても敬意を持てる人。大学卒業後に国際社会で即戦力となるように、大学在学中での実践的な語学教育カリキュラムに取り組み人。対人コミュニケーション、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートの基本能力を身につけ ICT などの知識を活用し、適切な情報発信ができる人。

学部等名 健康栄養学科

教育研究上の目的（公表方法：[www.dobunkyo-dai.ac.jp/department/univ/human/dietetics/](http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/department/univ/human/dietetics/)）

（概要）

管理栄養士養成施設なので、卒業と同時に実務経験なしで管理栄養士国家資格の受験資格が取得できる。管理栄養士は食と健康のスペシャリストであると同時に、人に関わる職業でもある。「もてなしの心」をキーワードにして、豊かな人間性を持った管理栄養士の養成をめざす。さらに、管理栄養士や栄養教諭の資格取得の支援はもちろん、健康・栄養のスペシャリストとして幅広く活躍できる人材を養成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：[www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/dietetics.html](http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/dietetics.html)）

（概要）

健康栄養学の学位は、人々の健康と社会の福祉に貢献することができる豊かな人間性を持ち、『社会から望まれる管理栄養士』に必要な以下の能力を修得したとき授与する。

- ・病院等における栄養補給法に関し、医療チームに対して必要な提案や助言ができる。
- ・地域住民の疾病予防や健康増進のための栄養教育を、栄養疫学に基づいて展開できる。
- ・栄養学的なエビデンスに基づき、食品関連企業等において商品開発や製品の管理に参画できる。
- ・個人・集団の健康状態等に適応する、適切に栄養管理された食事が提供できる。

上記のような能力を身に付け、所定の単位を修得者に対し卒業を認め、栄養学の学位を授与する。また、その目標を達成するため、以下のような知識・技術を身に付けるための教育を実施する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：[www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/dietetics.html](http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/dietetics.html)）

（概要）

管理栄養士に求められる能力を身に付けるため、以下のような方針で教育課程を編成・実施する。

健康栄養学科の教育課程の編成は、社会で活躍する管理栄養士に必要な知識・技術を培うため、教養科目、専門基礎科目、専門科目を体系的に配置して効率的な学習を施行する。また、「総合演習」「臨地実習」及び「卒業研究」を通じて、管理栄養士の業務に関する科学的根拠に基づく適切な計画・実行・評価・判定を行う能力を養う。「管理栄養士論」「食・生活教育演習」などの導入教育と位置付けられる科目の学習を通じて明確な管理栄養士像を造り上げる。多様な学生に対応するため、高校で学んだ内容も含んだ基礎的な科目を配置し、すべての学生が専門的な科目を学ぶために必要な知識・学力を身に付ける。これにより、高校教育から大学における専門教育へと、連続的・統一的に学習が進められるよう

にする。栄養学、健康と病気の概念の理解に必要な基礎教育科目、技術・スキルの基礎としての実験・実習科目を配置し、2年時に以降に学ぶ専門科目主体の学習への素地を醸成する。栄養士法、同法施行令、施行規則及び管理栄養士学校指定規則、並びに、学則で定められた専門基礎科目及び専門科目をもとに、栄養士免許、管理栄養士国家試験受験資格、栄養教諭一種免許、食品衛生管理者及び食品衛生監視員（任用資格）を取得するために必要な科目を配置する。2年次後期から3年次前期にかけて豊富な学内実習を配置し、管理栄養士が活躍する職場で必要とされる知識・技術を身に付けたうえで、3年次後期から4年時前期の臨地実習につなげるカリキュラムを構成している。こうした科目配置により、就職活動への支障を極力抑えるように配慮している。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/dietetics.html](http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/dietetics.html)）

（概要）

社会において管理栄養士として活躍し、人々の健康と社会の福祉に貢献したいと考え、そのための教育に前向きに取り組む意欲のある人。管理栄養士の学術的根拠となる栄養学を学ぶために、必要となる生物や化学、国語などの基本的な学力および一般的な計算能力を身につけている人。課題に対し「どこが問題なのか」「解決には何が必要か」などを自分で考えることができる人。実習・実験などにおいて、他者と協働して作業を行うことができる態度を身につけている人。

学部等名 理学療法学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/department/univ/human/pt/>）

（概要）

「豊かな人間性」「健全な社会性」「高度な専門性を持った理学療法士養成」を教育目標とし、刻々と変化する現代社会においても常に社会の要請に応えることのできる理学療法士の育成を目指す。教育内容としては、社会人として必要な教養科目、医学や理学療法を基礎とした専門基礎科目、専門科目の合計124単位を履修し、卒業要件を満たすことにより理学療法士の国家試験の受験資格を得られる。

卒業の認定に関する方針（公表方法：[www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/pt.html](http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/pt.html)）

（概要）

社会性と教養を身につけた理学療法士になることができる。

【知識・理解】

- ・理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。
- ・理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。

【思考・判断】

- ・理学療法学における課題を倫理的に探究する能力を身につけている。

【関心・意欲】

- ・対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。
- ・医療に関わる他の職種役割を理解し、協力関係を築くことができる。

【態度】

- ・幅広く教養を高める意識と、理学療法学の発展に貢献するという使命感を持っている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：[www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/pt.html](http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/pt.html)）

（概要）

豊かな人間性とコミュニケーション能力を身につけるために、多彩な教養科目を配置し専門基礎科目と専門科目との連携を図る。理学療法学の基礎的知識・技術を系統的に学べるように、専門基礎科目、専門科目、臨床実習を体系的に配置する。医療に関わる他の職種と適切な連携をとり、地域社会に貢献できる人材を養成するために必要な専門基礎科目や専門科目を配置する。先進的な研究成果の理解力、課題探究能力、論理的な解決能力を身につけるための教育を展開する。理学療法士国家試験受験資格を得ることができる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/pt.html](http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/pt.html)）

（概要）

医療や介護の現場でリハビリテーションに関わりたい人。人間の運動・動作のメカニズムについて学びたい人。障がいのある人のために貢献したい人。スポーツをする人のために貢献したい人。がん患者のリハビリテーションに関わりたい人。高齢者の健康維持・増進のための貢献したい人。理学療法を学ぶために必要な基礎学力を持つ人。論理的に考え自ら判断できる人。自分の考えをわかりやすく説明できる人。多様な生き方や考え方を理解できる人。周囲に配慮し協力して行動できる人。

学部等名 作業療法学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/department/univ/human/ot/>）

（概要）

豊かな人間性と倫理観を伴った幅広い専門知識とチーム医療領域を理解すること。国際的視野と複雑な社会状況に対処する問題解決能力を養うこと。個人の生活を尊重し、敬意を持って人を理解するコミュニケーション能力を養うことを目的とする。そのために、作業療法臨床場面では、対象者との相互的な信頼にもとづいた共同作業が不可欠である。単に身体機能的な専門知識や技術をもつだけでなく心理学や社会科学などの幅広い知識が必要とされ、人権尊重、差別の禁止等の社会的常識や人間としての誠実さ・思いやり・敬意を持って人を理解するなどのコミュニケーション能力を備えた人格的資質に対する自己研鑽に機会を多く提供する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：[www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/ot.html](http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/ot.html)）

（概要）

- ・作業療法を実践するために基本的知識を身につけている。
- ・作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。
- ・作業療法評価学・作業療法治療学の基本的技能を身につけている。
- ・作業療法を実践するために必要な文章力・対人コミュニケーションの技能・プレゼンテーションとディスカッションの金本的技能を身につけている。
- ・作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自立性と個別性を尊重できる。
- ・根拠に基づく作業療法（EBOT）の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決方法を見いだせる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：[www.dobunkyo.ac.jp/outline/policy/ot.html](http://www.dobunkyo.ac.jp/outline/policy/ot.html)

（概要）

教員は学生とともに新しいことに挑戦し、学生を励まし、学生の伸びを認める姿勢を保つ。学習者中心型教育・学習成果基盤型教育のために、体系性と順次生性を重視した科目配置を行う。問題発見とその解決および論理的思考力を養うために、課題について能動的に自ら探索することを重視した教育（アクテブラーニング）を実施する。授業の事前・事後における主体的な学修を促進する。知的好奇心すなわち問題発見能力を養うために、また、コミュニケーション能力を高めるために、グループ学習など対話型・学生参加型の授業法を取り入れる。作業療法士としての基本的技能を身につけるために、臨床実習は臨床クラークシップ（臨床参加型臨床実習）形式で行う。特に初年度においては、多様な入学者が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるように促す。学習成果の把握のために、各科目における到達目標を明確に提示し、成績評価を厳格に行う。筆記試験に加え、OSCE（客観的臨床能力試）ポートフォリオ、ルーブリックなどを用いた多元的で質の高い評価を行う。評価結果について、学生に十分なフィードバックを行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[www.dobunkyo.ac.jp/outline/policy/ot.html](http://www.dobunkyo.ac.jp/outline/policy/ot.html)

（概要）

作業療法に強い興味を持ち、積極的に学び続けようとする。基礎学力を備えている。他の人の言葉や文章の意味を正しく理解でき、自分の考えを文章や言葉ではっきりと表現することができる。人間の構造・機能のメカニズムや、生活の背景について様々な疑問を持ち想像をめぐらすことができる。柔軟で誠実な姿勢で人に関わることができる。

学部等名 看護学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.dobunkyo.ac.jp/department/univ/human/nurse/>

（概要）

4年間の修学で看護師の国家試験受験資格が得られる。そのために、患者さんの痛みを感じ取れる歓声と苦しみを思いやる優しい心が求められ、また患者さんのプライバシー保護など、守るべき強い倫理観を持つ、医療人として重要な資質を育む。医療の高度専門化に対応できる医療人育成のため、医学の基礎や特色ある専門科目を学び、病院、その他の医療施設の現場で多くの臨地実習を行う。柔軟な思考能力、コミュニケーション能力、倫理判断能力を持った豊かな人間性の涵養と育成するための多くの専門教育を行う。チーム医療・看護ケアにおける看護職として、他職種とのチームワークとリーダーシップ及びマネジメント能力を養う。幅広い視野と高い見識を持った地域的、国際的に活躍できる資質の高い看護職者を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：[www.dobunkyo.ac.jp/outline/policy/nurse.html](http://www.dobunkyo.ac.jp/outline/policy/nurse.html)

（概要）

看護学科は、4年以上在籍し所定の単位数を修得すると共に、以下の素養を身につけ、看護師としての基礎能力を身につけているレベルに達したと認められる学生に対して卒業を認定する。

- ・看護学の理論や科学的根拠に基づき、人々の健康的な生活を支援するための基礎的知識を獲得することができる。
- ・人々の健康課題を解決するための柔軟な思考力と大局的な判断力をもち、協働しながら援助を実践することができる。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・人々の健康増進に関心をもち、主体的に学習を継続し、自己成長につなげることができる。</li> <li>・科学的に思考し、創造的に問題や課題を探求し解決することができる。</li> </ul>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<a href="http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/nurse.html">www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/nurse.html</a>）</p> <p>（概要）          看護師免許取得に必要な看護学の基礎となる教育内容を体系化したカリキュラムを作成している。前期から看護の基盤となる講義や実習を配置して、看護学を専攻した入学時の動機づけが継続できるように配慮している。本学科の特徴は1年次から4年次まで、講義で得た知識を演習や実習で強化できるようにバランスよく科目を配置していることである。これにより「看護師国家試験受験資格」が得られるカリキュラムになっている。実習は主に3年次後期から4年時前期に集中して行われる。このため3年次後期から就職への心構えや準備を整えている。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：<a href="http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/nurse.html">www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/nurse.html</a>）</p> <p>（概要）          看護学を学ぶために必要な基礎学力を身に付けている人。問題解決に向けて、「思考力と」判断力、行動力を発揮できる人。協働しながら、主体的に課題に取り組むことができる人。</p>

<p>学部等名 こども発達学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/department/univ/human/child/">www.dobunkyo-dai.ac.jp/department/univ/human/child/</a>）</p> <p>（概要）          こどもを明るく楽しませ、自分自身が楽しみ、周囲の人々と「楽しさ」を共有することから全てがはじまり、主体的・創造的・挑戦的「楽しさ」を共有できる資質を養成する。自らが動きこどもと向き合う、自らを動かすたくましい意思、ありのままのこどもを見つめる洞察する力、生じる新たな発見、発達支援のプロフェッショナルとして、理論と実践が一体化できる能力を養成する。真のプロフェッショナルであるには家庭や地域の人々と協力し、こどもの成長や発達について寄与できる社会人であり、バランス感覚豊かな優れた資質・能力を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<a href="http://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/child.html">www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/child.html</a>）</p> <p>（概要）          ・卒業までに地域社会と保護者のニーズに応え、保育・教育・子育て支援において、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援し、保育者、教育者、子育て支援者としての基本的資質を身につけている。          ・こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての知識と理解を得ている。          ・保育者・教育者・子育て支援者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力、および同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を獲得する。</p>

- ・今日の保育・教育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しよとする意欲・態度を身につけている。
- ・主体的・探求的な学習を通じて、変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることのできる基礎力を修得している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：[www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/child.html](http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/child.html)

（概要）

保育者・教育者・子育て支援者として求められる知識・能力を乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものそれぞれについて広く学ぶとともに、そのいずれかについて一層深い知識を身につける。こどもの幸せを願い、こどもとともに成長することを喜びとする資質をベースに、心理学・教育学・特別支援教育学等の科学的見地を学習することによって、保育者・教育者としての資質・能力の形成へとつなげる。初年度は基礎ゼミ等による科学的探究方法への入門教育や文章表現能力形成等の基礎教育に加え、こどもの成長、発達やそれを実現する教育についての全般的な理解を図る。保育士資格ならびに幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援教諭のうちの3つの免許取得を基本とし、豊富なボランティア活動を行う。保育士に関する学外実習は2、3年次、その他の教員免許に関する実習は4年次、就職活動は4年次に実施し、その前後に実習準備の講義、反省の事後指導を配置するなどして、理論と実践の結合を図り、実践能力を形成する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/child.html](http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/outline/policy/child.html)

（概要）

いろいろな人とかわり、意思や思いを伝えあいたいと願う人、コミュニケーション能力を常に高めたいと考える人。広い視野を持つ努力を怠らず、人々の生活に幅広く目を向け、論理的思考能力を持ち、バランス感覚に優れた人格でありたいと願う人。こどもの幸せを願い、こどもの発達を支えていく意欲にあふれ、専門的な力を発揮するための努力を怠らず、自ら行動することを目標とする人。こどもの生活や成長に強い関心を持ち、何事にも積極的にチャレンジする意欲のある人。こどもに関する心理学・教育学・特別支援学等の科学的理論、学問、さらには実習等の実践的な学修によって、入試で問うたこどもへのかかわりを求める資質を開花させるようにする人。基礎・基本的な知識・技能の習得するための勉学の習慣、社会で活躍するための基礎となる知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、目標の実現に向かって努力を続ける学習意欲をもっている人。

## ②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/university/evaluation/index.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
外国語学部	—	9人	3人	1人	0人	0人	13人
人間科学部	—	34人	22人	26人	7人	8人	97人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
—		87人					87人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： <a href="http://www.do-bunkyo.ac.jp/university/staff/">www.do-bunkyo.ac.jp/university/staff/</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
外国語学部	100人	53人	53%	400人	212人	53%	—人	3人
人間科学部	450人	414人	92%	1800人	1646人	91%	—人	0人
合計	550人	467人	84%	2200人	1858人	84%	—人	3人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
外国語学部	76人 (100%)	11人 ( 14.4%)	54人 ( 71.2%)	11人 ( 14.4%)
人間科学部	469人 (100%)	3人 ( 0.6%)	453人 ( 96.6%)	13人 ( 2.8%)
合計	545人 (100%)	14人 ( 2.6%)	507人 ( 93%)	24人 ( 4.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
国際言語学科：卸・小売り (10.0%) サービス (15.0%) 情報通信 (17.5%) 不動産・賃貸 (12.5%) 健康栄養学科：栄養士・管理栄養士・公務栄養士・栄養教諭 (61.8%) 理学療法学科：医療関係 (96.9%) 作業療法学科：医療関係 (94.6%) 看護学科：大学病院 (21.8%) 公的病院 (12.6%) 医療法人 (55.2%)				

こども発達学科：小学校・特別支援学校教諭（23.4％）幼稚園教諭（13.1％）保育士（33.6％） 指導員・支援員（8.4％）公務員・総合職・一般職（21.5）
（備考）

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
（備考）					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>（概要）</p> <p>開講前年度の12月までに来年度の授業を計画し、2月中旬を期限としてシラバスの作成、ポータルシステムへの登録へと進めている。教員には「シラバスの作成に関する研修会について」のFD研修会を開催し、資料「シラバス作成要領」に基づき、①授業の位置づけ、②授業の概要、③到着目標、④授業の方法、⑤ICT活用、⑥実務経験のある教員の教育内容、⑦課題に対するフィードバックの方法、⑧授業計画（学習内容、準備事後学習）、⑨成績評価の方法、⑩教科書、⑪参考文献などを示している。シラバス作成後は、シラバスチェック専門部会規程により選出されたシラバスチェック委員により、全科目のシラバスが「シラバスチェック要領」に基づいて内容確認が行われ、3月下旬にWEB公開している。</p>
--



⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 各授業科目について、事前にシラバスに記載された「評価の方法」に基づき評価を行い、単位を与えると共に、入学前に教育機関で得た単位について学内の委員会で審議を行い、適当と判断されたものについて単位を認定している。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
外国語学部	国際言語学科	124 単位	○・無	44 単位 (各学期 26 単位)
人間科学部	健康栄養学科	124 単位	○・無	44 単位 (各学期 26 単位)
	理学療法学科	124 単位	○・無	44 単位 (各学期 26 単位)
	作業療法学科	124 単位	○・無	44 単位 (各学期 26 単位)
	看護学科	124 単位	○・無	44 単位 (各学期 26 単位)
	こども発達学科	124 単位	○・無	44 単位 (各学期 26 単位)
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法： 北海道文教大学奨学金 <a href="http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/campuslife/scholarship.html">www.do-bunkyo-dai.ac.jp/campuslife/scholarship.html</a>		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： <a href="http://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/facilities/campus/">www.do-bunkyo-dai.ac.jp/facilities/campus/</a>
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
外国語学部	国際言語学科	810,000 円	200,000 円	150,000 円	教育充実費
人間科学部	健康栄養学科	810,000 円	200,000 円	300,000 円	教育充実費・実験実習費
	理学療法学科	800,000 円	300,000 円	500,000 円	教育充実費・実験実習費
	作業療法学科	800,000 円	300,000 円	500,000 円	教育充実費・実験実習費
	看護学科	1,000,000 円	300,000 円	500,000 円	教育充実費・実験実習費
	こども発達学科	800,000 円	200,000 円	250,000 円	教育充実費・実験実習費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生一人ひとりの学力に応じて学修を行うための環境の構築と、経済的不安がなく学修に専念できるための奨学金制度の充実をはかることにより学修を支援する。学修環境としては、1年生は入学直後に宿泊研修を行い、上級生や教職員と親睦を図りながら大学生活に慣れることを目的としている。クラス担任、アドバイザー制度をおき、修学及び進路等についての個別指導を入学時から行い、日常的に相談に応じ助言を与える学生指導上のシステムの他、オフィスアワーを設けて学部・学科を問わず専任教員と話し合い、指導を受けることができるようにしている。経済面では、成績優秀者、課外活動優秀者、経済的理由により修学が困難な者に対する給付奨学金、入学時成績特待、スポーツ特待、緊急支援に対する減免、海外留学奨励金を設けている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 学生一人ひとりが社会人として自立できるために、職業人としての意識の醸成、進路の選択就職活動を学年にあわせてきめ細かく支援する。3年次後期15回行う就職活動準備講座、全学年対象の公務員対策、FP資格講座等の就職支援講座を実施している。就職活動の手順やルールについて学びながら豊かに自己を表現できる為の実践的講座としてキャリアデザイン講座を開講している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生一人ひとりの心身の健康の保持・増進をはかるための環境の構築と、生活全般にわたる体制を充実させることにより安心して学生生活が送れるように支援する。保健管理センターには看護師が常勤して対応し、学内において負傷したり気分が悪くなった場合は適切な処置対応を行う他、メンタルに関する悩みは、学外の臨床心理士2名が定期的にカウンセリングを行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：[www.do-bunkyo.ac.jp/university/staff/](http://www.do-bunkyo.ac.jp/university/staff/)

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	
設置者名	

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		人	人	人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	人

(備考)
------

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	人	人
GPA等が下位4分の1	人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	人	人
計	人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
年		単位時間／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
人		人	人	人	人	人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要）
成績評価の基準・方法 （概要）
卒業・進級の認定基準 （概要）
学修支援等 （概要）

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		



②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
-----------------------------

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	
設置者名	

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		人	人	人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	人

(備考)
------

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	人	人
GPA等が下位4分の1	人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	人	人
計	人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。